

II

地域の輪で心がかよい、 市民が集うまち (地域の絆)

II 地域の輪で心がかよい、市民が集うまち（地域の絆）

施策の方針(5) みんながつながり支え合う

市民同士のふれあいや地域連帯意識を高め、災害時でも地域の共助で乗り越えられるという安心感のある地域コミュニティの活性化を促進します。身近なコミュニティの助け合いを基本とし、隣の地域やその他の地域の市民とつながりを深めることで、臼杵のまち全体に交流の場が広がり、お互いの生活を支え合うことのできるコミュニティの再構築に取り組みます。コミュニティ施設や公民館・公園など市民が憩いの場として集う拠点を活用し、地域住民の情報交換の場やネットワークの場づくりを推進します。未来を担う子どもたちにコミュニティの意義やあり方を引き継ぎます。

具体的施策 11 地域内交流・地域間連携

施策の方針(6) 臼杵に魅かれ暮らす人を増やす

臼杵の魅力を市内外に伝えるような移住施策・住宅情報・求人情報などの情報を一元化して市全体で広く発信していきます。移住希望者が地域と積極的に交流できることで地域に馴染み、安心して暮らせるような配慮やきめ細かな相談体制を作るなどの支援を行います。地域の新しい担い手としても活発に活動でき、いきいきと暮らせるような仕組みをつくります。

具体的施策 12 「うすき暮らし」の推進

■具体的施策の方向性



少子高齢社会で一人暮らしの高齢者が増えていますが、いつまでも住み慣れた生活の場で過ごせるよう、隣近所や地域で助け合う「地域力」を高めるための支援に取り組みます。子どもから高齢者まで、世代や性別を超えて交流し、活動することで地域の一体感の醸成を図ります。地域生活を維持できる自治会組織として小規模な自治会を再編し、自治会組織の活性化を図るとともに、旧小学校区単位では地域振興協議会の設立及び活動を支援します。

地域活動として行われる祭りや地域の催しに積極的に参加できるよう、幅広い年代でできる運動を推進します。地域振興協議会を中心として、防災士や福祉委員・健康づくり推進員や介護予防サポーターなどの協力者を育成し、住み慣れた場所で安心して生活ができるような取組を推進します。子どもを地域の宝として見守り育てながら子育て世代の支援を行っていきます。

活動の拠点となる施設などの維持管理に努めます。

■現状と課題



人口減少と少子高齢化が進行する中、過疎が進んでいる地域では小規模化・高齢化により、地域社会の担い手不足や地域コミュニティの機能低下などの問題が生じています。世代や性別を超えた交流として地域対抗のナイターソフトボール大会や市民体育大会なども開催していますが、年々出場チームの減少が課題となっています。

現在、地域コミュニティの最小単位の集落として市内に306の自治会がありますが、5世帯以下の自治会が10地区、20世帯以下の自治会では126地区となっており、地区の伝統行事や清掃活動などの共同作業、相互扶助が難しくなっていると同時に地区の代表者の選任さえ難しくなっています。このように、自治会の運営が危ぶまれる地域が生じていることから、地域の連帯感の高揚、交流の円滑化と地域活動の効果的・効率的な運営が図れる自治会規模の構築が必要です。

臼杵市では、人口に占める65歳以上の割合である高齢化率は35%を超え、人口減少も相まって10年後には40%台に到達すると予測されています。生活に不安を抱えている高齢者も多くなっており、一層地域内での連携が求められています。防災面では小学校区ごとに防災士連絡協議会を設立し、自助・共助に取り組んでおり、持続的な地域づくりができるよう地域振興協議会の設置も推進しています。地域振興協議会を核として、既存の地域活動の活性化や、子どもからお年寄りまでみんなが参加できる地域活動に取り組んでいくとともに、その活動や組織を次の世代に継承していくことが必要です。



■主な取組



自助(自分で取り組めること)

- 自分の地域の魅力を再認識し守ります。
- 子どもからお年寄りまで、誰にでも気軽にあいさつをし、地域の中で普段から顔の見える関係を築きます。
- イベントや行事などの地域活動に積極的に参加します。
- 臼杵市お達者長生きボランティア制度に加入し、地域内で暮らしに手助けが必要な人に対し、手伝いを行い、地域内での支え合いの仕組みに参加します。
- 地域内の子どもに目を向け、未来を担う子どもたちに、昔からある遊びや知恵などを伝承していきます。
- 地域住民の共有で使っていくコミュニティ施設をきれいに使用するなど、維持管理に協力します。

共助(お互いに助け合うこと)

- 自治会や地域振興協議会などの地域組織を中心に、地域コミュニティの維持・活性化に努めます。
- 地域でウォーキングなどの軽スポーツ大会を行い、汗をかきながら地域の交流を深め、健康づくりにもつなげていきます。
- 地域振興協議会の活動で、さまざまな人とともに、体を動かす取組を行ったり、料理教室などの食に関する活動、芸術や音楽などの文化的な活動を積極的に行います。
- 自治会や地域振興協議会などが主体となって、誰もが楽しく参加できるような催しを実施します。
- グリーンツーリズムやブルーツーリズムが活発に活動を続けられるよう、宿泊の受け皿となる家庭を増やしていきます。

公助(行政が支援すること)

- 地域で三世代が集まるレクリエーションや運動会などを、学校などと連携して行います。
- すべての地区に地域振興協議会の設置を促すとともに、地域間の住民の交流を図るため、複数の地域振興協議会による合同イベントを支援します。
- 主体的に活動ができる一定規模の自治会になるよう、統合再編を促します。
- 地域パートナーを配置し、積極的に地域と行政の橋渡しをします。
- 地域振興協議会の活動拠点や地区集会所の整備に対し、必要な支援を行います。
- さまざまな制度について、市民への情報発信とともに意識付けに努めます。

■ものさし(指標)



No.	ものさし(指標)名	単位	現状値(2015)	目標値(2019)	ものさし(指標)の説明
1	地域が主体となって行うイベントの実施数	回	60	100	地域振興協議会が関わるイベント数
2	コミュニティセンター、地区公民館の利用回数	回	1,325	1,590	年間の施設利用回数
3	地域パートナーの活動回数	回	50	200	協議会の活動などで支援した延べ回数
4	地域振興協議会の設立数	組織	11	18	地域振興協議会の組織数
5	一定規模(おおむね50世帯)以上の自治会	組織	306	200	自治会(行政区)の数

■具体的施策の方向性



自然環境とともに、臼杵の魅力である、人の温かさやコミュニティの充実による暮らしやすさを体感し、定住に結びつくような移住支援策を図ります。

1 人でも多くの人に移住・定住してもらえるよう、魅力ある臼杵の情報を市内外へ発信するとともに、移住前から移住後に至るまでの移住・定住に関するトータルサポート体制の構築をめざします。

空き家の有効活用を進め、1軒でも多く灯りのともる家が増えていくことで、以前から住んでいる人も含めて、すべての市民が臼杵に住んでよかったと感じ暮らせることをめざします。

■現状と課題



臼杵市は、若年層を中心に隣接する大分市や福岡・東京などの都市部人口流出が多いため、人口の減少傾向が続いています。臼杵市を持続可能で活力あるまちにするためには、こうした傾向に歯止めをかけることが必須であり、国もまた地方創生の一環として都市部への一極集中を是正する動きがあります。

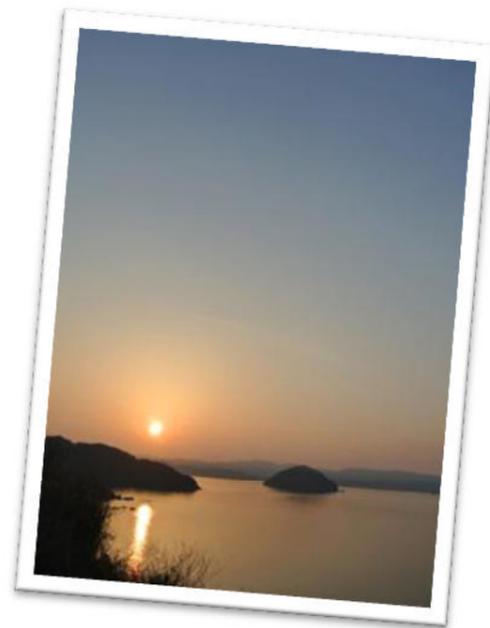
臼杵市では、庁内の横断的な連携により移住・定住の促進に本格的に取り組んでいます。平成26年度から、空き家バンクの創設・地域おこし協力隊の採用・移住ガイドブックの作成・都市圏における移住フェアへの出展などの取組を始めています。

移住・定住を促進するためには、高齢になっても安心安全に生活できるまちであると共に、移住者が住居と雇用の確保に加え、起業や就労の機会を得られることが重要です。空き家バンクの登録件数を増やすことで住居環境を整えるとともに、市内の企業や事業者に対して移住者の雇用を呼びかけていく必要があります。

【特に関連の深い施策】

[移住・定住のための魅力ある臼杵市として]

- * I-2 子育てしやすい環境
- * V-12 ふるさとを担うたくましい人材
- * IV-10 社会経済
 - IV-10-20 地場企業の育成・企業誘致
 - IV-10-21 雇用の確保・就労支援
- * VI-18 市民の暮らしと調和した生活空間
 - 住環境(空き家バンク): VI-18-43
- * VII-21 安心安全な暮らし
- * II-5-11 地域内交流・地域間交流



■主な取組



自助(自分で取り組めること)

- 移住者に対して、あいさつや声かけなど、地域の一員として温かく迎えます。
- 移住者は、地域活動などに積極的にに関わり、地域住民として進んでとけ込むよう努めます。

共助(お互いに助け合うこと)

- 地域のイベントなどのみんなが集まれる機会に、移住者の参加を促す工夫をします。
- 空き家の情報を提供します。
- 移住者に対する移居前・移住後の相談などのサポートをきめ細かく継続的に支援します。

公助(行政が支援すること)

- UIJターンを推進し、移居前・移住後の相談などのサポート(人的支援)の体制をつくり、移住者に対してきめ細かく、継続的に支援します。
- 若者や子育て世帯の移住を積極的に受け入れ支援します。
- 移住・定住を促進するため、雇用の場の創出を推進します。
- 地域おこし協力隊が活動期間中に起業するなど、まちづくりリーダーとしての役割を担うことのできるよう、人材を育成します。
- 女性の起業について支援し、定住を促します。
- 空き家バンクなど移住支援策について積極的に情報発信します。
- 大学や地元企業との連携による地域活性化を推進します。

■ものさし(指標)



No.	ものさし(指標)名	単位	現状値(2015)	目標値(2019)	ものさし(指標)の説明
1	移住者数	人	2	60	空き家バンクを利用した移住者数
2	市内の企業や事業所に雇用された移住者数	人	0	20	移住者のうち就労の支援を行って、仕事に就いた者の数
3	臼杵の体感機会を訪れた人数	人	12	50	移住希望者に対する体感機会に参加した人数
4	アグリ起業学校生徒数	組	3	3	アグリ起業学校の体験生徒数
5	地域おこし協力隊受入れ人数	人	2	12	地域おこし協力隊の受入れ実人数(累計)

